

ありがとうとごめんなさい

須田 桃華^{すだ ももか}

わたしのおとうさんとおかあさんは「たくさんしっぱいしてもけんかしてもいいけれど、ありがとうとごめんなさいは、しつかりといえるひとになってね。」といいます。ふたりともわたしにどんなにおこっけていても、かたづけをしたりおてつだいをしたりしたあとには、かならずありがとうとつたえてくれます。そして、まいにちだいすきといってくれます。わたしのいもうともたくさんけんかをするけれど、いっしょにあそんでくれてありがとうといってくれます。わたしはそんなかぞくがだいすきです。

おとうさんもおかあさんもしごとであさはやく、よるはおそいです。それでもおかあさんはまいにちみんなのごはんをつくってくれたり、しゅくだいをみてくれたりしています。ねむるまえにはえほんもよんでくれます。おとうさんはせんとくやさらあらいなど、いつもへやをきれいにしてくれています。ふたりがしごとでおそいときには、おじいちゃんやおばあちゃんがいっしょにねてくれます。おじいちゃんはいつもあそんでくれておもしろいはなしをしてくれるし、おばあちゃんかわいいバッグやようふくをつくってくれます。いもうとはごっこあそびをしてくれるし、こわいときにはいっしょにいてくれます。ともだちはいっつもあそんでくれるし、ともだちのおかあさんもならいごとにつれていってくれます。さみしいときもあるけれど、わた

しのためにはたらいっているのだとおもうし、まわりにはあそんでくれるひとがたくさんいるからだいじょうぶです。おかあさんがよんでくれるえほんのなかに「ありがとうのき」というえほんがあります。このえほんは、さむいひにてぶくろをかりたうさぎが、てぶくろのおれいにじぶんのみみあてをつかってくさいと、てがみをかきます。このてがみをみたどうぶつたちがつぎつぎにものをかりては、そのかわりにじぶんのものをきにつるしていくというはなしです。

このえほんのように、わたしがおもう「ありがとう」のきもちは、どんどんまわりにつながっていくものだとおもいます。ありがとうといわれるとうれしいきもちになるし、いったほうもこころがあたたかくなります。どんなにおこっけていても「ごめんね。」といわれると、まあいいかとゆるすことができます。

わたしは、ひとりではいきていきません。それに、おもしろいことやうれしいことは、だれかといっしょにしたほうがなんばいもおもしろいです。だから、ありがとうとごめんなさいのことは、たくさんつたえていきたいとおもいます。そして、そのことがつながって、かぞくやともだち、せかいじゅうのひとのこころがやさしい「ありがとう」でいっぱいになったらうれしいです。